


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
せー3	せいこう 青蒿	苦・寒 肝・胆	6～15g、大量で18～30g、煎服。
中医生薬解説			
 <p>カワラニンジンの全草</p>		<p><b>清退虚熱</b> 陰虚の骨蒸潮熱、盗汗などの症候に、<b>銀柴胡・胡黄連・地骨皮</b>などと用いる「<b>清骨散</b>」「<b>秦艽鼈甲湯</b>」。</p> <p><b>清熱解暑</b> 暑温の発熱、悪寒、汗が出る、咳嗽、口渇、頭痛、悪心、下痢、脈が滑数などの症候に、<b>滑石・連翹</b>などと用いる「<b>雷氏清涼滌暑方</b>」。</p> <p>小児の夏季熱にも、<b>地骨皮・白薇・知母</b>などと用いる。</p> <p><b>清胆退癘</b> 瘧疾（マラリア、腎盂炎など）や湿熱鬱阻胆経の往来寒熱に、<b>黄芩・竹茹・半夏</b>などと用いる。</p> <p><b>清熱涼血</b> 温熱病後期の邪伏陰分による夜間に発熱し、朝に解熱する、熱が退いても汗が出ないなどの症候に、<b>生地黄・知母・鼈甲</b>などと用いる「<b>青蒿鼈甲湯</b>」。</p> <p>紫斑には、<b>升麻・鼈甲・生地黄・当帰</b>などと用いる。</p> <p>鼻出血には、新鮮品をすりつぶして湯で冲服する。</p> <p><b>その他</b> 止痒の効能をもち、血分有熱による風疹（蕁麻疹）の瘙癢に有効である。</p>	
使用上の注意		虚寒の下痢や多汗には用いない。	